

コリント人への手紙第二 第1章 4節

「神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。」

猛暑が続く今夏、家の周りに育つ木立や植物に目がゆく。実を結ぶ植物もあり楽しませてくれる。それだけではなく、やはり十分な水分が届いているのかと気にかかる。酷暑のわりには元気な様子である。水が必要なときはややしおれたように頭を垂れる。大体その前に水が注がれている。

この暑さにもめげず花の種類にしたがって咲き、鮮やかな色彩を楽しませている。開花スピードは天気により少しは異なることがあっても、それぞれ固有の花を結ぶ。暑すぎるから変わるとか、寒すぎるから駄目とか、雨ばかりだから咲かないとはならない。時が来れば咲き、見る者の目とところに潤いを与える。

「神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。」天気模様だけではなく、人生模様が荒れ狂うことが多い。そのなかで、どのような嵐に苦しむときにも、慰めがあるのは、人生行路に力が湧き、望みがある。この慰めは最初に受ける者だけのものではなく、傍らで苦しむ、慰めを必要とする者のためにも働く。酷暑に咲く花のように。

2022年8月6日